

教科に関する調査の結果及び分析

【調査について】

実施日 令和6年4月18日（木）

実施対象 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒

調査内容 小学校第6学年：国語、算数、質問調査
中学校第3学年：国語、数学、質問調査



各教科の平均正答率（堺市と全国・大阪府）

教科	小学校		中学校		小国算 合計	中国数 合計
	国語	算数	国語	数学		
堺市	65	61	57	50	126	107
大阪府	66	63	57	51	129	108
全国	67.7	63.4	58.1	52.5	131.1	110.6
全国平均を100/堺市	96.0	96.2	98.1	95.2	96.1	96.7

成果

- 中学校の国語においては、全国平均を100とした場合の平均正答率の割合が昨年度の同一学年と比較して改善した。また、同教科において、学力低位層（正答率40%未満）の割合が減少した。
- 「自分にはよいところがあると思う」という質問項目において、小学校、中学校で「当てはまる」と答えた回答の割合が全国を上回った。

課題

- 小学校、中学校ともにすべての教科で学力低位層（正答率40%未満）の割合が全国を上回った。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、小学校、中学校で肯定回答の割合が昨年度から上がっているものの、小学校、中学校ともに全国を下回った。

各種調査に関わる堺市の取組

すべての子どもが学ぶことを楽しみ、自ら学びを進められる「自律した学習者」を育成するために、堺市教育委員会は、①授業改善と②子どもの学び方支援に取り組む。

①授業改善

- ・調査結果については「分析のしおり」にまとめ、つまずきのポイントや9年間の指導の系統性を示し、学力向上に向けた効果的なカリキュラム改善を支援する。
- ・「学びのコンパス」に基づく授業改善を図り、探究的な学びを推進する。総合的な学力向上研究員の派遣等により、授業改善例を示し広く周知する。

②子どもの学び方支援

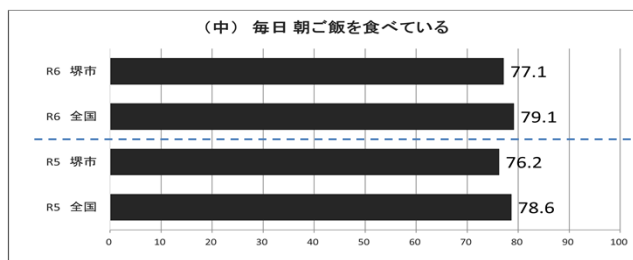
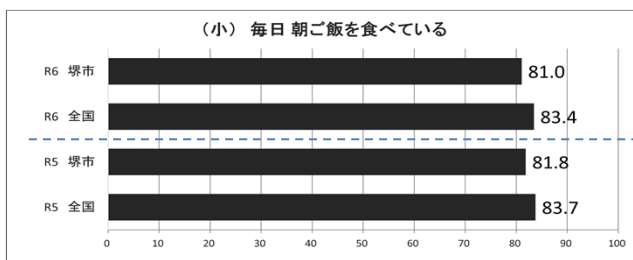
子どもが自身のつまずきに気づき、自ら学びを進められるよう「ドリルパークで学ぶ力を育てようシート」を提供する。

上記について、学校が自校の学校教育目標の実現状況を検証できるよう「検証改善分析シート」を提供する。

学習・生活状況に関する調査の結果概要

◆ 家での7つのやくそく

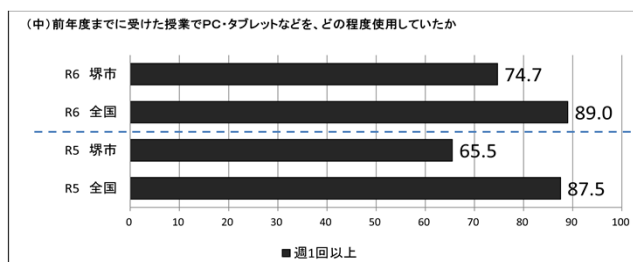
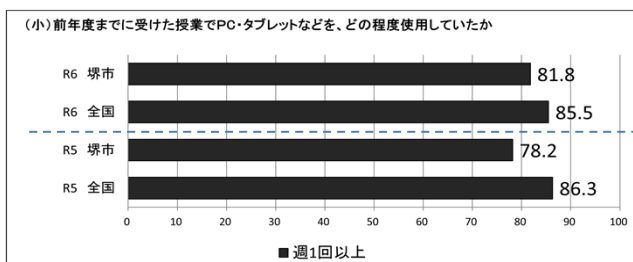
○毎日朝ご飯を食べている割合は、小中学校ともに全国を下回った。



※家での7つのやくそくのうち「早寝早起き」「家族との対話」「学校に持って行くものを前日に確かめる」「宿題など自分から進んで勉強する」「テレビやゲームの時間を決めよう」「読書」は、質問紙調査を実施していないため、記載していません。

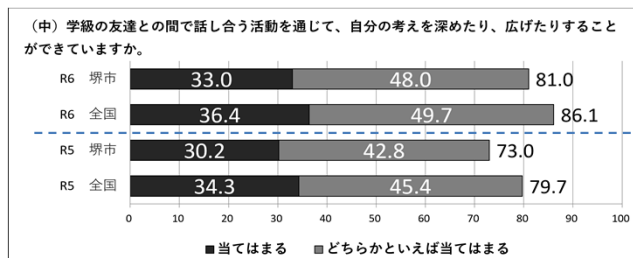
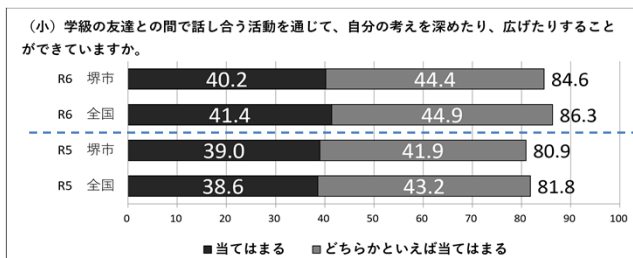
◆ ICTの活用について

○前年度までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用していたかの問いについて、週1回以上使用している割合は昨年度より増加したものの、全国を下回った。



◆ 主体的・対話的で深い学び

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という質問項目において、小学校、中学校で肯定回答の割合が昨年度より増加したものの、全国を下回った。



◆ 自尊感情を育む教育

～子ども自身が自分の良さを感ぜられる取組の推進～

○「自分にはよいところがあると思う」という質問項目において、小学校、中学校で「当てはまる」と答えた回答の割合が全国を上回った。

